

来週の市場とレート予想

	2/12(月)	2/13(火)	2/14(水)	2/15(木)	2/16(金)
無担保O/N			△0.075%	～0.001%	
銀行券		+ 900	ト ン	△ 1,000	△ 1,000
財政他		△ 2,700	ト ン	+ 56,000	△ 25,000
資金需給		△ 1,800	ト ン	+ 55,000	△ 26,000
主な要因		国庫短期証券発行・償還 (3M・6M) 国債発行(30年)	交付税特会借入・償還	年金定時払い 源泉税揚げ 国債発行・償還(2年)	国債発行(5年)
オペ期日		共通担保(固定) △ 1,500 CP等買入 △ 200 国債補充供給 + 2,300			
オペスタート	祝日	共通担保(固定) + 900 ETF買入 + 700	短国買入 + 12,500 国債買入 + 8,500 CP等買入 + 2,500		
(日本)		企業物価指数(1月)	GDP(10-12月速報) 日銀営業毎旬報告 (2月10日現在) 日銀が保有する国債の 銘柄別残高 日銀による国庫短期証券の 銘柄別買入額	機械受注(12月)	
(海外)	米 財政収支(1月) 米 2019年度予算教書		米 CPI(1月) 米 小売売上高(1月) 米 ムニシオン財務長官、上院 財務委員会で2019会計年度 予算案について証言 欧 ユーロ圏鉱工業生産(12月) 欧 ユーロ圏GDP (10-12月、改定値)	米 ニューヨーク連銀製造業景況 指数(2月) 米 週間新規失業保険申請件数 (2月10日終了週) 米 ファイデルフィア連銀景況指数 (2月) 米 生産者物価指数(1月) 米 鉱工業生産指数(1月)	米 住宅着工件数(1月) 米 シカゴ大学消費者 マインド指数(2月、速報値)

<インターバンク市場>

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.040 ~ 0.060
SPOT 2M	△0.030 ~ 0.060
SPOT 3M	△0.020 ~ 0.070
SPOT 6M	△0.010 ~ 0.120

<CP>

日銀当座預金残高は週初359兆2,100億円から始まった。6日に国債買入・国庫短期証券買入オペが入るとその後は359~360兆円台で推移し、週末9日は360兆5,900億円となった。無担保コールON物金利は、堅調な地合いが続き、週末にかけて徐々にビッドが厚くなる展開となった。同加重平均金利は5日の△0.044%から上昇基調を辿り、週末9日には△0.034%となった。ターム物は、1~2W物を中心に△0.025~△0.03%での出合が散見された。来週の主な予定は、国内では10~12月期のGDP速報値(14日)、海外では、米国2019年度予算教書(12日)、米国1月CPI(14日)、ムニシオン米財務長官の上院財務委員会での2019会計年度予算案についての証言(14日)などが予定されている。

<オープン市場>

CP3M(a-1+)	△0.010 ~ 0.000
TDB 3M	△0.200 ~ △0.140
現先(on/1w)	△0.100 ~ 0.000

<TDB>

今週の入札発行総額は約3,000億円で、週間償還総額の約5,100億円を下回った。鉄鋼や電気機器の一部で大型案件が見られたものの、週間を通じて案件数は少なく、やや閑散なマーケットであった。発行レートは、引き続き投資家の運用ニーズが強く、0%近辺の出合いとなった。8日にCP等買入オペ(2,500億円)がオファーされ、結果は、按分落札レートが前回と同様△0.001%、落札平均レートが0%と前回(0.001%)から低下した。来週の償還総額は、約4,900億円となっている。発行市場は、5・10日スタートでまとまった新規入札案件が見込まれるため、償還総額を上回ると思われる。発行レートは、投資家の運用ニーズが強く、引き続きマイナスから0%近辺の出合いであろう。現先レートは、△0.100%~0%程度の横這い圏内の出合いを予想する。CP等買入オペが、15日に2,500億円程度オファーされる予定。

<レポ>

7日に行われた国庫短期証券6M第737回債の入札は、最高落札レート△0.1454%(前回債△0.1243%)、平均落札レート△0.1495%(同△0.1324%)と前回入札からマイナス幅を拡大。また、8日に行われた3M738回債は、最高落札レート△0.1479%(同△0.1454%)、平均落札レート△0.1524%(同△0.1495%)と前回とほぼ横ばいであった。週末のセカンダリー市場は、新発3M物、6M物共に△0.158%で出合が見られ、入札水準からマイナス幅をやや拡大した。来週は15日に3M物、16日に1Y物の入札が予定されている。

足許GCIは週初△0.07%台から始まり、週央以降レートが低下する展開。TDB6M、3Mの発行が重なった13日受渡しも、レート上昇には至らず△0.09%~△0.095%が出合いの中心。週末には国庫短期証券・国債買入オペがオファーされ、△0.10%近辺まで低下し越週した。SC取引では5年134回債のbidが7日の国債買入オペ後増加。週末には△0.40%近辺の取引も見られた。10年債は330番台後半のbidが多く、339回債は週を通して概ね△0.30%台前半~半ばの出合いが続いた。他2年381・382・383・384回債、5年131・132・133・134回債、10年336・337・338・339・340・341・342・346・347・348・349回債、20年162・163回債、30年56・57回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。